

令和 6 年 4 月 3 日現在

機関番号：32419

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23387

研究課題名（和文）共感性トレーニングによる自閉スペクトラム症者の不安軽減および共感性向上の効果検証

研究課題名（英文）Evaluation of the Effectiveness of Empathy Training in Reducing Anxiety and Improving Empathy in Person with Autism Spectrum Disorder

研究代表者

吉田 昌宏 (Yoshida, Masahiro)

人間総合科学大学・人間科学部・助教

研究者番号：10850901

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：ASD者がストレスを感じる環境、状況を把握しそのストレスの程度を測定するStress Survey Schedule(以下、SSS)の日本語版の作成を行った。ASDの診断を受けた研究協力者103名のデータを元に分析を行った。原版の8因子構造を確認するために実施した確認的因子分析の結果は、原版のモデルが不適であることを示した。そこで、日本語版の因子構造を調べるため、探索的因子分析を行った。その結果、日本語版SSSは4因子構造であることが示され、再検査信頼性も良い結果が示された。SSSの年齢差と性差を調べた所、統計的に有意な差は示されなかった。この結果から、日本語版SSSが開発された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本邦にて作成されていない、ASD者がストレスを感じる状況、環境を把握し、そのストレスを測定する尺度であるStress Survey Schedule (SSS)の日本語版の作成を行った。尺度の開発により、ASD者へのよりこまやかな支援へつながること、およびSSSを用いた今後の研究の発展につながることに学術的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：We developed a Japanese version of the Stress Survey Schedule (SSS), which measures the degree of stress felt by individuals with ASD in the environment and situations in which they feel stress. The results of confirmatory factor analysis conducted to confirm the eight-factor structure of the original version indicated that the model of the original version was not suitable. Therefore, an exploratory factor analysis was conducted to examine the factor structure of the Japanese version. The results showed that the Japanese version of the SSS has a four-factor structure, and retest reliability was good. Based on these results, a Japanese version of the SSS was developed.

研究分野：臨床心理学

キーワード：臨床心理学 ASD Stress Survey Schedule ストレス環境

1. 研究開始当初の背景

自閉スペクトラム症(以後, ASD)は, 中核症状である共感性の問題が高いほど不安症状の併発率が高くなることが示されている一方, ASD 者が示す不安の要因は個々人で異なり, 支援方法も多岐にわたるため, 中核症状である共感性へのアプローチが望まれる。

2. 研究の目的

ASD 者が不安を感じる状況, 環境とそのストレスの度合いを測定する **Stress Survey Schedule** (以下, **SSS**) の日本語版の開発を行い, その信頼性, 妥当性を確認する。

3. 研究の方法

SSS の項目作成 尺度翻訳に関する基本指針(稲田, 2015)にもとづき, SSS の項目をもとに, 原案項目の作成を行った。まず SSS の原著者らに日本語版作成の許可を得た後, 臨床心理周辺領域の博士号を持つ著者ら 2 名による日本語訳原案を作成し, 翻訳会社(株式会社ワイズ・インフィニティ)を利用して項目リストのバックトランスレーションを実施した。内容について原著者に確認を受けた後, 再度内容を調整後, SSS 原版を作成した。SSS は, ASD 者が感じやすいストレスを測定する 8 因子 49 項目から構成されている。8 因子は「不快な出来事 9 項目」「反復的な儀式 4 項目」「楽しい出来事 8 項目」「不透明な見通し 5 項目」「変化 11 項目」「感覚/個人的な接触 5 項目」「食事に関する活動 3 項目」「社会的環境の相互作用 4 項目」であった。教示文は「次の出来事について, あなたのストレスの強さを評価してください。」とした。回答には 5 件法(0. まったくそう思わない 4. 非常にそう思う)を用いた。

調査対象者および調査方法 調査委託先の株式会社マクロミルのインターネット調査サービ스에登録している, 医療機関において ASD と診断された成人 110 人のうち, 回答に天井効果, 床効果が見られた 7 名を除外した。調査対象者は成人 ASD 者 103 名であった(平均年齢 37.08 歳, SD = 9.42。男性=53 人, 女性=50 人)であった。再検査信頼性は本研究に参加し 3 週間の期間を空け, 2 度の回答を得られた成人 ASD 者 99 名(平均年齢 37.11 歳, SD = 9.56)のデータを使用した。

分析結果

SSS 原版 8 因子 49 項目の確証的因子分析を行った結果, $\chi^2 = 1232.19$, $df = 941$, $p < .000$, GFI = .93, CFI = .97, AIC = 82.18, RMSEA = .137 であった。RMSEA はこの 8 因子モデルの適合度が悪いことを示した。そこで, 最尤法, Promax 回転による探索的因子分析を行った。スクリープロットと固有値, 平行分析および最小平均偏相関は 4 因子を示した。固有値の推移, 解釈可能性, 因子負荷量 .35 以上であること, 複数の因子に .35 以上の因子負荷量を持つ項目の削除, 質問内容がほぼ同じ項目の削除の 5 つの観点から因子数の決定や項目の選定を行った。

その結果, 「反復的な儀式に関連したストレス」「不透明な見通し」「感覚/個人的な接触」「食事に関する活動」4 因子 28 項目を除外し, 項目の内容を鑑み, 日本語版の命名を行った因子「期待実現の遅延 6 項目」「適応の強制 6 項目」「不確実性 6 項目」「他者との空間共有 3 項目」の 4 因子 21 項目となる日本語版 **SSS** が作成された

4. 研究成果

研究成果は下記論文に掲載。

日本語版 Stress Survey Schedule の開発 成人 ASD 者のストレスを感じる状況，環境下の
ストレスの把握 . (2024). 吉田昌宏, 木内敬太. 応用心理学研究, 49(3), pp.185-192.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 吉田昌宏, 木内敬太	4. 巻 49
2. 論文標題 日本語版 Stress Survey Schedule 成人 ASD 者のストレスを感じる状況・環境下のストレスの把握	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 応用心理学研究	6. 最初と最後の頁 185, 192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	木内 敬太 (Kiuchi Keita)	労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所・過労死等防止調査研究センター・特定有期職員 (82629)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関